幼保連携型認定こども園の現場における３歳未満の教育の質の在り方に関する研究

研究代表者　福澤　紀子　（つるた乳幼児園　園長）
共同研究者　菊地　義行　（境いずみ保育園　理事長）
只野　裕子　（こども園あおもりよつば　園長）
青木　恵里佳（子どもの家愛育保育園　副園長）
岩橋　道世　（こども園るんびにい　副園長）
椛沢　幸苗　（中居林こども園　理事長）
東ヶ崎　静仁（飯沼こども園　理事長）
坂﨑　隆浩　（こども園ひがしどおり　理事長）
矢藤　誠慈郎（岡崎女子大学　教授）
北野　幸子　（神戸大学大学院　准教授）
平山　　猛　（認定こども園さざなみ保育園　園長）

研究の概要

３歳未満の保育においては、養護的関わりを中心に、食べさせ、寝かせ、おむつを替え健康管理がなされていれば保育が完成されていると勘違いしている部分がある。上記のことは生命を保持する上で最低限必要な動物的条件であり、人格形成に関わる教育的環境とはいい難い。人間は生まれてすぐに生きるために自らも学び始めるが、人間としてより豊かになるための学びを提供するのは周りの大人の責任となる。また発達するために持って生まれてきた各種の発達プログラムを正しく稼働させるためにも乳児教育により生活環境を豊かにする工夫は重要である。

０歳からの発達が３歳以上の幼児の学びの力に大きく影響をするにもかかわらず、満３歳以上の幼児教育と比較しあまりにも過小評価されている。また教育という言葉を使うことで小学校以降の学校教育をイメージし、何らかの知識を本人の発達を無視し、ただただ教え込むと言った誤解の上に、幼児教育という言葉にアレルギーを持ってしまう傾向もある。

例えば、おむつを取り替える際に、無口で黙々と交換しても教育的環境とは言えないが「きれいにしようね」「気持ちいいね」などの言葉をかけながら取り替えることで、きれいにするという行為と言語が一致し、気持ちいい状況と言葉が一致する。つまりすでにここには言語の教育が存在し､持って生まれた言語獲得プログラムが作動することになる。

家庭教育環境の格差是正に乳児期の保育が寄与すること、特に援助を必要とする家庭環境にある子どもこそ、乳児教育の恩恵が大きいことが各種研究で明らかになっている。これらの一助としても、教育・保育の専門家である保育教諭が存在する幼保連携型認定こども園が乳児教育について研究し、現場の保育をより豊かにする必要がある。

以上のことから、３歳未満児の教育の質の在り方を検討し3歳未満児の教育の重要性の確認、及び３歳未満児の教育に必要な保育教諭の力量を明らかにする。

キーワード：・実践現場の声を中心に、課題を抽出する
・実践から特に未満児に必要なことについて事例から整理する
＝発達理解、愛着形成、環境構成と関わり、非認知能力と認知能力の基礎作りについて整理する

１．はじめに

過去において、教育は３歳児以上が対象であり、３歳未満児においては保育であるとのある種の認識があった。これは「教育」という単語が課程修得に向けての学びであるとの考え方の中で、言語の獲得以降が前提であり、言語で思考し理解するものという考え方が根底にあるからである。しかし、今回の新教育・保育要領の改訂では、その言語で思考し理解する能力の根底を司る力の習得においても教育なのだと示された。これは、３歳未満児での思考や理解の根底が、その後の年齢においての成長・発達（学習指導要領でいうところの「生きる力」）

の根底であることを指し示している。

言語で思考し理解する力を習得するまでにどのような発達を経るのか。物心がつく頃までに身についてしまっているので勝手に育つもののように捉えがちだが、自然界の人間以外の生き物のように本能により生まれて即座にある程度の水準まで確立されるものとは違い、思考・理解・感情などが時間をかけて育まれていく。０歳児においても五感を使って獲得した体験・経験に他者からの関わりを受け、それらの相互作用の中から、その意味するところを感じ考えることができてくる。これらを基盤に様々な言葉の内容と基礎が構築され、思考や理解の原点を司っていくのである。

１～３歳児未満にはどのような発達を経るのか。０歳児で構築され始めた思考や理解の原点に幅や深さが増し、様々な発展をしていく。ここで間違ってはいけないことは答えを示すことではない。必要なのは多種多様な可能性を見いだしながら自己において選択・決定・決断し行動する力の獲得に向け、そこに影響する周囲の人的・物的環境がもたらした結果を踏まえながら千変万化に整え続けることではないだろうか。語彙の獲得とは、自らの思いが根底にあり、その思いの意味に合う語彙であることが重要であり活用される語彙となるのからである。明確な答えの知識ではなく、将来の成長・発達に向けた力の根底を横断的に育むためには、周りの大人の声かけや様々な関わりは非常に重要であり、その責任は大きいものといえる。また、３歳未満児においては同年齢他者との関わりは始まったばかりと捉えることができるだろう。

２．目的

３歳未満児における教育の実践、乳児の３つの視点、10の姿を見据えた５領域の獲得には、やはり計画が重要不可欠であり、新教育・保育要領では計画のPDCAサイクル構築が求められ、目指すところは改善である。改善は的確な評価から導かれ、その導きに向けた評価システムの構築が目的である。今回の研究は、計画の実施をビデオに収録し、記憶ではなく記録で振り返り、計画したねらいや内容は問題なく実施できたか、実施した効果、それぞれの年齢ごとに設定したねらいの達成度などの概要部分と、具体的に選択した遊びや活動、用意した環境、保育者の関わりや意識などを洗い出し、その結果をもたらした要因（全体的な人的・物的な要因も含め）は何かを見つけ出し、明確になった要因が次の段階でのPDCAサイクルにおける思考の出発点となるよう配慮した。

３．研究方法

保育者は「反省的実践家である」と北野幸子(神戸大学大学院准教授)は言う。保育者は体を使って保育実践をしながら、同時に意識はその行為を客観的にモニターして反省的洞察を行い、行為の効果を支えていると言う。

日々の保育を省察する事、つまり振り返りをすることにより、保育者の力量の維持向上に繋がることは当然のことである。保育の質をどう保ち、更に向上させていくのか。その、保育力を高めるためにその毎日の活動をどう検証していくのかは大きな課題である。

我々はこれまで様々な検証をしてきた。平成27年までは、園や保育者及び保護者等のアンケート調査をし、それを基にしたデータ作成を基本として研究を進めてきた。平成28年は「保育ドキュメンテーションを媒体とした保育所保育と家庭の子育てとの連携・協働に対する研究」この研究では、連携・実践として保護者との話し合いを行い、様々な意見をもらう中からの検証を試みてきた。

ビデオ撮影に至った経緯とその効果

今回のビデオカンファレンスに至った大きな要因は、保育総合研究会（会長：椛沢幸苗）における東海学園大学教育学部教育学科准教授水落洋志（当時は名古屋柳城短期大学准教授）の講演「保育力を可視化する―気づきの熟達化―」「保育者の保育経験が眼球運動に及ぼす影響について量的、質的視点からの研究」※にある。水落洋志のビデオ研究成果、実際に保育者の眼球の動きは保育の現場をどう捉えているのか、その見落としている部分や保育者としてのプロの幅広い洞察力は大変参考になった。PECERAにおいてベストポスター賞を受ける内容は、私たち定例会に参加した保育者にとってその内容は興味深く、関心を強くひかれた。

それを受けて、本年度保育科学研究において、「０～２歳児のスキンシップの在り方」を検証するために動画（ビデオ）撮影することになった。次に、動画（ビデオ）撮影の効果について述べてみたい。例として、ドキュメンテーションとの比較を考えてみた。

写真、その写真のエピソードや保育の効果の説明文などと比べた場合、動画による情報量は遥かに多いと考えられる。特に今回のように実際の場面を、その保育者以外の人間が振り返ると考えれば、動画（ビデオ）の効果は期待できると考えた。

※第58回定例会開催において2016年度PECERA（環太平洋乳幼児学会）世界大会においてBEST POSTER AWARD受賞をした。

方法や実施期間／カンファレンスの進め方／ヒアリング調査

基本的な撮影から会議までの流れを次のように考えた。

29年８月　動画撮影
29年９月　撮影を公開し、委員全員による意見聴衆会
　　参加保育者へのアンケート
29年10月　アンケートまとめと委員による意見交換会
　　執筆

方法　実施期間、カンファレンスの進め方

日本各地で撮影日時は夏場の８月とし（実際には９月に入ったものもあった）、昼食準備前の午前中活動30分を一定の角度から固定ビデオカメラで撮ることとした。園児情報（男女人数）、担当職員（資格の有無）を記入してもらう。

これに協力した園は次の通りである。（尚、地域性の考慮はしていない）

（０歳児）・つるた乳幼児園（青森）
・境いずみ保育園（茨城）
・飯沼こども園（茨城）
（１歳児）・こども園あおもりよつば（青森）
・子どもの家愛育保育園（東京）
・こども園ひがしどおり（青森）
（２歳児）・中居林こども園（青森）
・認定こども園さざなみ保育園（熊本）
・こども園るんびにい（大分）

撮影したものを平成29年９月20日保育科学研究委員会にて検証した。

この際の視点としては、保育計画、保育環境の在り方や工夫、園児の保育環境への関わりなど、いわゆる遊びの内容、保育教諭の役割に焦点をあて、結果的に保育教諭の果たしている場合は専門性の維持向上を目的に９か所の園の動画を見る事とした。

更に補助作業として（結果的には動画＋アンケートという両輪からの検討となった）アンケートを実施した。確認作業として、意見を述べる私たちと実施している保育との整合性を図り、差異を確かめるために、ビデオに参加した保育者に対してアンケートをとり、その見た感想なども抽出できるよう考えた。（アンケートの内容については別添参照）

アンケートは９点にした。「０～２歳児のスキンシップの在り方を検証するとして」、１．対象、２．保育内容、３．振り返り、４．アタッチメント、５．興味関心、６．非認知、７．家庭との違い、８．保育計画、９．その他とした。

アンケート調査を通して、振り返りを図る重要性は十分に図れ、検討に参加してもらっている感覚は明らかになったと考える。

4.　アンケート分析

Ⅰ．対象クラス

毎日の生活における３歳未満児の様子をAM10：00から30分間と時間設定、各園でビデオ撮影、子どもの発達に必要な環境と関わりの有効性と保育士等の関わりの在り方を検証した。

０歳児（０歳～１歳）は、青森県・つるた乳幼児園、茨城県・飯沼こども園、茨城県・境いずみ保育園の３園で、子ども数合計26名：職員合計13名、１歳児（１歳～２歳）は青森県・こども園あおもりよつば、東京都・子供の家愛育保育園、青森県・こども園ひがしどおりの３園で子ども数合計48名：職員合計10名、２歳児（２歳～３歳）は青森県・中居林こども園、熊本県・こども園さざなみ保育園、大分県・こども園るんびにいの３園で子ども数合計41名：職員合計８名のビデオによる動画撮影を検証した。園別の子ども数、職員配置については次のとおりである。

経験豊富な保育者と経験の浅い保育者の組み合わせと有資格者の職員配置となっている。０歳児には最低基準配置をした上で看護師の配置もしているようである。無資格者については配置基準を満たした上での配置となっている。

	０歳児（０歳～１歳）			１歳児（１歳～２歳）			２歳児（２歳～３歳）		
園　　名	つるた	飯沼	境いずみ	あおよつば	子供の家	ひがしどおり	中居林	さざなみ	るんびにい
子ども数	13	7	6	9	15	24	12	12	17
職員有資格	5	5	2	2	3	4	2	2	4
無資格						1			
その他			1（看護師）						

Ⅱ．ビデオの保育内容

入所児童の月齢によって各園の保育内容が違い、０歳児は①おもちゃ遊び、室内用固定遊具、②自由遊び、お片付け、おやつ、朝の歌の様子、１歳児は①ままごと、運動遊び、②午前のおやつ、③コーナー遊び、２歳児は①粘土遊び　②おやつの時間などの様子となっている。

０歳児のねらいは、情緒の安定を重視し、そして、言語能力を育てる、身体感覚の育み、好奇心探求心の育み、基本的な生活習慣の獲得を掲げている。１歳児は指先の感覚を育てる、コミュニケーションを育てる、身体感覚の育み、好奇心・探求心の育み、基本的な生活習慣の獲得となっている。２歳児は指先の感覚を育てる、子ども同士の関わりを育てる、想像力の育み、コミュニケーションを育てる、言語能力を育てる、基本的な生活習慣の獲得があげられている。特徴として、０歳児は信頼関係を図るべく情緒の安定を、１歳児は好奇心・身体感覚の育み、２歳児は指先の感覚、子ども同士の関わり等、子どもとの信頼関係の構築と共にからだの発達に伴うねら

いを設定している。

環境の工夫として０歳児はおもちゃの選択、１歳児は室内家具の位置、保育室の換気、子どもが使用する教材、２歳児は子どもが使用する教材、家具の位置、コーナー遊びの構成、色・形・音等の美しさや面白さの工夫をあげている。

五領域のねらいとして、０歳児は健康・人間関係を重視、１歳児は健康・人間関係と共に環境・表現をあげている。２歳児は人間関係を重視、その他健康・言葉・表現をあげている。

保育内容は月齢による差異から、工夫の観点も各園で変わっているようである。０歳～１歳児においてアンケート結果から環境の工夫とする彩光・換気は記されていないが、ビデオ検証してみると、十分な彩光・換気が保たれているようである。五領域のねらいに０歳児～１歳児に健康を重視しており、各園で彩光・換気等は当たり前としているようにうかがえる。

Ⅲ．実践者の分析振り返り

①ビデオを見た後のクラス担当の保育者同士での話し合いは、０歳児クラスから２歳児クラスまで９園中６園66％が行っており、話し合いを行っていた園は同時に他の職員との話し合いも行っている。話し合いが行われなかった理由は時間が確保できないが多く、②してないは、いつも話し合っているのでわざわざ話し合いの機会を持たなかった園もあった。

・話し合いの効果について、０歳児クラスでは③子どもの発達を冷静かつ具体的に捉えることができた、②次の保育へのヒントとなった、⑥子どもとの関わり方のよい部分、不足の部分が具体的に確認できた、⑨保育者自身の行動パターンや言葉かけの確認ができた、という結果となった。

１歳児クラスでは①気づかなかった保育実践のよい部分を確認することができた、⑥関わり方、⑨行動のパターン、２歳児クラスでは①気づき、③子どもの発達、④子ども同士保育者同士の具体的な連携やその方法を確認することができた、⑥関わり方となった。

０歳児、１歳児、２歳児に共通する項目として、⑥子どもとの関わり方の確認があった。

自己評価としてはほとんどが②の保育のねらいはある程度達成されたと答えている。

・保育のねらいが達成されたと感じた子どもの行動については、０歳児クラス、１歳児クラス、２歳児クラスを通して③保育者が提供したオモチャ教材に興味をもって関わったときと①準備した教材に一定時間集中して関わっていたとき、そして⑥保育者と一緒にした遊びを子どもが自分自身の意思で繰り返していたとき、が共通に感じられたことであり、月齢があがるにつれ⑦の保育者と一緒にした遊びを子ども同士で繰り返していたとき、がというものも選択されている。

・達成された保育のねらいから見える子どもの育ちや学びについては、０歳クラスでは①心と体⑩感性・表現、そして⑥思考力、１歳児クラスでは①心と体、⑨言葉につづき②自立心、③協働性や⑩感性・表現が選択されている。２歳児クラスでは⑩感性・表現が２ポイント、④道徳性、⑤社会生活、⑥思考力、⑨言葉がそれぞれ１ポイント選択されている。

Ⅳ．保育のアタッチメント・スキンシップ

保育活動の中でアタッチメントを意識しているかという問いには①意識した、②まあまあ意識した、を合わせて７割の保育者が意識していると答え、９割近くが子どもとの愛着形成は確立していると考えている。

スキンシップの具体例の記述を見ると、子どもとの関わりにおいて、０歳児では抱っこや寄り添いなど身体の接触と言葉かけが保育者からの働きかけによることが多いのに比べ、１歳や２歳になると、子どもからの働きかけも多くなり、双方向のやりとりも含めスキンシップと捉えられている。また、スキンシップのとられた状況がその後の探索行動や遊びをする流れの中で捉えられていることも窺える。

今回の保育活動の中では子ども達とのスキンシップはどの年齢区分でもある程度取れていると考えられている。

アタッチメントやスキンシップによる子どもの育ちについては、０歳児では②安定した情緒が３ポイント、⑫自己表出に２ポイント、⑤好奇心と⑥表現する喜びに１ポイントで育ちや学びがあったとの回答があり、１歳児では、②安定した情緒に２ポイント、①思いやり、③自信、③相手の気持ち、⑥表現する喜び、⑪言葉への興味、⑫自己表出に１ポイントずつ、２歳児では②安定した情緒及び⑫自己表出に３ポイント、⑥表現喜び、⑦環境への関心に各１ポイントずつ回答されている。

全ての年齢区分で②安定した情緒や⑫自己表出、⑥表現する喜びが共通したものとして回答されており、その他には０歳児で⑤の好奇心、１歳児ではさまざまな回答にばらつきがみられ、２歳児については、②安定した情緒及び⑫自己表出への回答傾向が見られた。

アタッチメントやスキンシップによる保育への影響はさまざまあるが、安定した情緒や自己表出により影響があると捉えられているといえる。

Ⅴ．興味、関心、探究心

幼児期の終わりまでに育ってほしい具体的な姿として10項目があげられ、それは・健康な心と体・自立心・協同性・道徳心、規範意識の芽生え・社会生活との関わり・思考力の芽生え・自然との関わり、生命尊重・数量、

表　スキンシップ、アタッチメントの具体例に見る保育活動

クラス	子どもの行動	保育者の関わり	その後の行動
０歳児	不安が強く泣いていた	抱っこや声掛け	泣き止み安心して一人遊び
	欲求を声掛けや身振りで知らせる	抱っこ	満足して遊びだす
	椅子に座りたくなかった	そばについた	安心して座れた
１歳児	足がもつれて指を痛めた	「大丈夫?」と声かけ	笑顔を見せ、遊びに戻る
	おでこをぶつけた	「痛いのとんでいけ」と何度か声掛け	安心した表情を見せ、遊びに戻る。
	できない部分を先生にお願いする	大丈夫だよと応答	目と目を合わせて安心した表情になる
	保育者の側に来て話しかけ、膝に座って遊ぶ	話しかけや行為にうなずく	安定した表情になり活動を始める
２歳児	達成した喜びを保育教諭とハイタッチ	ハイタッチ	保育者と共有をして喜ぶ。
	自分なりの遊びを見つけ遊びに集中する	子どもの意思を尊重し、余計な関わりを避ける	遊びに満足したことにより、保育者の支持を素直に受け入れることができる
	保育者の声かけを聞こうとする	声かけ	遊びに積極的に取り組む姿勢が見られる

図形、文字等への関心、関わり・言葉による伝え合い・豊かな感性と表現があげられる。

今回、アンケートとなる興味、関心、探究心は幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の姿の思考力の芽生えに繋がるものと考えられる。

思考力の芽生えとは、事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じとったり気づいたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しむようになるとともに友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断し考えなおしたりなどして新しい考えを生み出す喜びを感じながら自分の考えをよりよいものにするようになることに繋がっていくものである。

・０歳児

興味、関心、探究心の芽生えがある程度感じられ、自分の興味のあるおもちゃで遊んだり、保育者が関わる場面では更に興味、関心、探究心が他のおもちゃにも移ったりと、この年齢にして広がりに兆しがあるという結果であった。遊びの初歩ではあるが、ひとり遊び中心の中で保育者との関係も深まりつつあることと思われる。

・１歳児

おもちゃで遊び保育者と子どもが関わる場で思考力が育つことは、同じであるが、

それにおもちゃと４者（教材・子ども同士・保育者）で関わる場が増えたことから子ども同士の関わりが０歳の１対１の充実した経験を基に１歳からより明確に成立してくることを示しており、４者との関わりの中で思考力いわゆる興味、関心、探究心が育つものと思われる。

・２歳児

２年間と言う生活経験の中おもちゃで遊び、子ども同士、おもちゃと４者（教材・子ども同士、保育者）の場で関わりの質・量・幅・深度の充実が図られよりいっそう興味、関心、探究心が育つと思われる。

また０歳児から２歳児までの成長は著しいことから個人差を考慮した、一人ひとりの子どもの発達に即して、関わり方も多様化する中で興味、関心、探究心は育つと思われる。

Ⅵ．非認知能力の育ち

人口減少が進み社会が変化している中､知識だけでは、その変化についていけない時代が予想され、今後複雑な変化に対応できる力、知識や技術の積み重ねだけではなく、意欲・忍耐力・社会性・協調性といった情動的スキルが求められてくる。このような非認知能力の育ちが重要である。

・０歳児

抱っこしてほしい思いをその子なりの自己表出の段階で、まなざしや発語等によって泣かずに訴えることができる。また、遊びの途中の声掛けで片付けることができたり、その行為が意欲や好奇心だったりなど、日々の生活からの体験・経験が思いやりや社会性を育てていくこ

とに繋がると思われる。

・１歳児

運動遊びで順番を守ったり、前に入れてあげたりと社会性や思いやり等が育っている。０歳児では、自分だけのことであったが、１歳児になると少しずつ他児を意識した関わりの中で、更に社会性や思いやりが育っていると思われる。

・２歳児

友だちが倒した箸立てを直してあげたり、おやつ時間座って待ったり、粘土遊びの時、粘土をお友だちに分けてあげ、優しさ、持続性、思いやり、社交性、自己統制等が他児との遊びの中で遊具や教具を仲立ちに育っていると思われる。

つまり関わりの数が自分、他児、遊具と年齢が増えるごとに増え、非認知能力の獲得へと確実に繋がっていくものと思われる。

総括

非認知能力の育ちについては、数字等で表すことができないため、その証明は難しいことと考える。

非認知の育ちが０歳は「ある」のみの回答となっているが、１歳児では「ある」と「ない」の回答となっており、２歳児では「ある」のみの回答となっている。また、非認知能力の自尊心の育ちが０歳児で自尊心が「ある」という答えに対し、１歳児、２歳児では自尊心への回答はない。

これは何を意味しているのか。アンケートの際の保育者への説明不足（②育ちの場面の９項目、忍耐力・自己抑制・目標への情熱・社交性・敬意・思いやり・自尊心・楽観性・自信～動画の中で非認知能力へと結びつけることができなかった）による非認知能力への認識のズレがあるのではと考えられる。

Ⅶ．園と家庭との保育の違いについてのアンケート

①園と家庭の違いはあると思いますか？

０歳児クラス　大いにある～２ポイント、ある程度ある～１ポイント

１歳児クラス　大いにある～１ポイント、ある程度ある～２ポイント

２歳児クラス　大いにある～３ポイント

０歳クラスと１歳児クラス２歳児クラスとも、「大いにある」と「ある程度ある」という結果が出ている。保育には家庭による家庭保育と、こども園や保育所等での施設での保育とがあり、それぞれが違う役割がある事に対して、保育教諭は保育の専門家として認識している為、このような結果となっているであろう。

②園と家庭保育で特に違うと思うものは何か

０歳児クラス

①大集団の学び　～０ポイント
②人間関係の育ち　～２ポイント
③子ども同士の学び～２ポイント
④計画的育ちの援助～０ポイント
⑤個々の発達段階に応じた保育の関わり～３ポイント
⑥教具・遊具　～０ポイント
⑦課題に即した指導～２ポイント
⑧行事・学び　～０ポイント

１歳児クラス

①大集団の学び　～１ポイント
②人間関係の育ち　～１ポイント
③子ども同士の学び～３ポイント
④計画的育ちの援助～0ポイント
⑤個々の発達段階に応じた保育の関わり～２ポイント
⑥教具・遊具　～０ポイント
⑦課題に即した指導～０ポイント
⑧行事・学び　～２ポイント

２歳児クラス

①大集団の学び　～２ポイント
②人間関係の育ち　～０ポイント
③子ども同士の学び～３ポイント
④計画的育ちの援助～０ポイント
⑤個々の発達段階に応じた保育の関わり～０ポイント
⑥教具・遊具　～１ポイント
⑦課題に即した指導～１ポイント
⑧行事・学び　～２ポイント

こども園は家族以外の大人やたくさんの友だちの中で生活をする事が、家庭と大きく違うところである。０歳児～２歳児クラスとも共通して「③子ども同士の関わりの中からの学び」について違いがあるという結果がでている。集団生活の影響「①大集団による学び」については、０歳児では集団生活の中でもまだ個人を優先しており１歳、２歳と年齢が上がっていくにつれ、集団の中で保育教諭や友だちに関わりが見られ始めるという、アンケートのような結果となっている。また「②家族以外の人との関わり」と「⑤個々の発達段階に応じた保育の関わり」は、０歳児では一人ひとりの発達段階に応じて集団の中においても個々の関わりを重視する意味でポイントが高くなっているが、２歳児になると集団保育の意味合いが高くなり個々の発達段階に応じた関わりのポイントが０歳児に比較し低くなっている。

Ⅷ．保育の計画

①保育計画の計画で大切にしているもの

チェックが多い順にみてみる

０歳児クラス　②発達過程　③生活の連続性　⑤養護　⑨生活習慣　⑭配慮事項　④興味関心　⑥教育⑦個別のかかわり　⑮保護者支援
１歳児クラス　②発達過程　①全体の計画からの流れ　③生活の連続性　④興味関心　⑦個別のかかわり　⑧集団のかかわり⑩行事　⑫多様な経験　⑭配慮事項
２歳児クラス　①全体の計画からの流れ　②発達過程　④興味関心　⑫多様な経験　⑭配慮事項　⑤養護　⑧集団のかかわり　⑨生活習慣

これらの結果より子ども同士の関わりや一人ひとりの発達に応じた環境設定など、保育と教育を合わせもっての専門性を考慮していると見受けられる。そして３クラス共通していることは、②発達過程　④興味関心の項目である。また０歳から３歳になるまでの子どもの成長発達は、個人差もあり、同学年の子どもの中でも４月生まれと３月生まれでは、個人差も大きい事から、０歳は特に一人ひとりの発達過程を大切にする事を大事に計画が立てられており、１歳２歳になっていくにつれ、個から集団を意識し大切に思う計画となっている。学びのところにかかる「多様な経験」の数字もあがっている。逆に⑦個別のかかわりは２歳児になると、大切にすることには入らなくなるようだ。養護のところをみてみると、数字的には、大きくないところからあえて大切にする項目でなく、大切にすることが前提となっているからであろう。

Ⅸ．その他　（自由記述）

０歳児
・ビデオ観察をすることで、多くの保育者は客観的に自分たちの保育を見つめ、振り返ることが出来る機会となったようだった。
・０歳児は成長発達の目覚ましい時期なので、個々の発達を考慮し日々の保育に当たっているが、ビデオ観察で俯瞰して子どもの様子を見ることにより、声掛けをしても活動に加われない子や、反対に日々の生活の流れを把握して行動する子がいるなど子ども自身の成長に気づく事も出来た。
・保育者自身の子どもへの関わりや配慮の仕方でも良い点や改善した方が良い点なども気付いた。

１歳児
・ビデオがあることで意識して行動することがあった。
・子どもの興味関心に合わせた遊びや保育の展開がなされていないと思う場面もあり、改めて普段の保育の課題や改善点などもビデオで撮ることにより分かった。また、話し合いの場を設けなかったが、他の保育者とお互いの保育を見せることにより、より良い保育が展開でき、子どもたちのとっても良い環境を整えられるのではないかという意見もあった。

２歳児
・ビデオ観察をすることで保育者自身の保育の振り返りと改善点に気づくことが出来た。
・普段何気なくしていることが実は深い意味があったり、不必要と思える行動なども浮き彫りになった。自己の保育の課題が明確になったという意見が多く上がった。

総括

ビデオ観察をすることにより、多くの保育者は自己の保育の振り返りや気付かない部分などが浮き彫りになるなどして、改善点や新たな気づきを得たという意見が多かった。

また、普段の保育では、目の前の子どもたちの保育に追われ、自分自身の保育を俯瞰的にみることが難しく、子どもの成長や個々の動きまでをじっくり把握する機会も少ないのが保育現場の実情であることが分かり、ビデオを撮ることは保育者の保育の振り返りと、今後のより良い保育の確立のためにも有効だと感じた。

今回は、乳児のアタッチメントの状況を把握するためのものであったが、保育の客観的視点を保育者自身が持つことに於いても非常に有益だったと言える。現状、主管や副主管から、保育の欠点や配慮点などを言われても釈然としないと思う保育者が居たとしても、ビデオで自分自身の保育を他の保育者に見られることにより、良い点や改善点なども気付くことが出来るので、会議なども有効だと感じた。

５．結果

大概は、年齢別及び月齢までも考慮した、善き支援（スキンシップ）を実践し関わり方も配慮に満ちているが、幾ら専門的知識と技術を身に付けている保育者であっても死角が生じていることに気づいた。

危険なことはないにしても声掛けや援助の仕方、また保育者同士の声掛けでもっと保育が展開できる場面は多々あることが伺われた。その事の指摘は、つまりは保育の質の向上に関わることが確認できたことであり、同様に保育者の質の向上にもつながっていくことが確認できた。大切な一助となる。とにもかくにも、保育は曖昧、複雑、多様性とも言われるが、その実践への環境整備や対応力（総合的な豊かさ）を考えられたことは動画の確かさである。

６．考察

新たな０歳児からの教育の視点の重要性

午前の保育の場面を撮影し、こども園の保育教諭が園児に関わっている姿や、例え０歳児であっても興味のある遊具を追いかけて遊び込む姿、また、１、２歳児の活

動場面をビデオに撮影し検討している姿から、まさしくPDCAのプロセスがビデオ観察から生じている。その結果スキンシップを、主に０歳児の養護を中心とした側面から１歳児を経た２歳児の平衡遊びへの支援までを見る機会を得たと共に、今後の要領や指針に書かれている３つの視点や１、２歳児の５領域に関してまでも見る視点として考えられた。それは一言で言えば０歳児からの園児が教育を受けるべき主体であるということが今回の最大の視点であり研究の成果になったと言える。

人間の生まれ持った遺伝子が環境に刺激され、発達のプログラムが稼働変化する（医学的に遺伝子は変わらないが、遺伝子が働く際のプロセスや機能は環境によって変わる。例えば学習・技能・考え方は遺伝の影響を受けにくいと言われている）ことも再認識できた。

7. 成果

保育の実践をビデオ撮影というツールで行ったところ、保育者自身の保育が可視化され冷静に保育の振り返りができたことは今回の研究に取り組んだひとつの成果として評価できよう。また日々の生活の中で見落としや気づきが薄いところなど、今まで園内研修で検討されながら、改善になかなか繋がらなかった内容が、動画を通して実践内容が保育者の記憶だけではなく、記録での振り返りにつなげられたことも質の向上と専門的知識への広がりにもなったと言えるだろう。更にしっかりとまとめ検討後、委員同士が互いの考えを出し合い共通点をみつけそれが研究成果にもなった。人的・物的環境については温かみや安心できる空間、部屋や椅子や机等の環境、雰囲気作り、保育者の暖かい語りかけ、まなざしやしぐさなどの行為、つまり専門的知識を身に付けている人からの教育的な関わり（教育・保育）など環境設定の重要性についても改めて認識できた。

8. まとめ

今回の主たる方法は動画撮影であったが、それを補うものとしてアンケート調査も取り入れ、「０～２歳児のスキンシップの在り方」の検証にあたった。結果・考察・成果からもわかるように、30分という時間帯においては不安で泣いたり、落ち着いて遊び込めなかったりと情緒的に不安定さは見られなかった。この事は協力園の部屋の環境、間取り、彩光、人的配置、遊具の設定、保育者の保育実践内容等々が関係していると思われる。また一人の子どもを取り巻く環境も左右していると考えられるがそれらを丸ごと受け止め、受け入れ、受け流して実践していくことが保育者に求められている。ただ保育者は教育・保育以外の業務に追われていることが多く、今後生活空間の豊かさの保障のためには配置基準の検討も必要と考える。改訂された保育所保育指針及び認定こども園教育・保育要領においては、満３歳未満の保育の重要性が示された。また、家庭保育の重要性と共に、こども園における集団保育の重要性は、専門的知識を持ち日々その研鑽に努め乳幼児の教育・保育に当たる保育と環境構成の質は、家庭環境とは違った教育的な刺激材料として子どもの発達に有益な効果をもたらすものと考える。

乳児（０歳）には「健やかに伸び伸び育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」と３つの視点が示され更に満１歳～満３歳未満の５領域と満３歳以上の５領域とのねらい・内容について年齢に考慮されている。これらのことは日々の保育の実践の中で一人ひとりの子どもたちが螺旋を描くように成長し、その積み重ねが認知能力や非認知能力として備わっていくものと考えられる。満3歳未満児までにおける思考や理解の根底がその後の成長・発達、つまり「生きる力」の根底でもあるといえるだろう。今後は改訂された保育所保育指針及び認定こども園教育・保育要領の内容を基に保育計画からの実践をカリキュラム・マネジメントの重要性を鑑みよりよいカンファレンスの在り方やどのような環境設定をすべきか、また、その教育の主体である園児への支援の仕方など探っていくことが必要であるし、研修等も含め検討して明らかにしていきたいと考えている。

参考資料

保育科学研究　研究材料動画資料

施設名

（黄色のセルに入力してください）

撮影条件

1. 撮影日時	平成29年　月　日　午前　時　分 ～ 午前　時　分
2. 撮影場所	（その他の場合）
3. 天候	
4. 気温と室温	（外気温）　℃　（室温）　℃
5. 屋内湿度	%
6. 空調の状況	※リストから選択

撮影クラスの状況

1. クラス（学齢）	※リストから選択
2. 園児構成	男児　名　女児　名

園児情報

No.	仮名	年齢	性別	備考
1	A	歳　月		
2	B	歳　月		
3	C	歳　月		
4	D	歳　月		
5	E	歳　月		
6	F	歳　月		
7	G	歳　月		
8	H	歳　月		
9	I	歳　月		
10	J	歳　月		
11	K	歳　月		
12	L	歳　月		

担当職員情報

仮名	年齢	性別	保育経験年数	担当年齢経験年数	資格
A	歳		年	年	
B	歳		年	年	
C	歳		年	年	
D	歳		年	年	
E	歳		年	年	
F	歳		年	年	
G	歳		年	年	
H	歳		年	年	
I	歳		年	年	
J	歳		年	年	

平成29年度　保育科学アンケート項目

1. 今回ビデオに撮った対象クラスについてお答え下さい。

問１．ビデオ撮りの対象になった年齢は何歳ですか？（当てはまるものに○を付けてください）

①０歳児（０歳～１歳）　②１歳児（１歳～２歳）　③２歳児（２歳～３歳）

問２．対象クラスの子どもの人数と職員の人数をお知らせください。（記述）

①子どもの人数【　　名】

②職員の人数　有資格者　　名

無資格者　　名

その他　　名（　　）

2. 今回ビデオに撮った保育の内容を具体的に書いて下さい。

問１．遊びの内容は？（当てはまるものに○を付けてください）

①ままごと　②オモチャ　③粘土遊び　④お店屋さんごっこ

⑤その他【　　】

問２．保育内容のねらいは何ですか？（ねらいに特に近いものを１～３つ選んで○を付けてください）

①指先の感覚を育てる　②想像力を育てる　③コミュニケーション力を育てる　④言語能力を育てる　⑤子ども同士の係り育てる　⑥身体感覚の育成　⑦社会性を育てる　⑧五感の育成　⑨好奇心・探究心を育てる　⑩工夫する力を育てる　⑪基本的な生活習慣の獲得　⑫情緒の安定　⑬分類・比較等

⑭その他【　　】

問３．保育を効果的にするために、環境のどのようなところに工夫（構成）をしましたか？（ねらいに特に近いものを１～２つ選んで○を付けてください）

①室内の家具の位置　②オモチャの選択　③保育室のの採光　④保育室の換気　⑤子どもが使用する教材　⑦コーナー遊びのテーブル等の構成　⑧色・形・音等の美しさや面白さ

⑨その他【　　】

問４．問２のねらいは５領域で言うと特にどの領域に当てはまりますか？（特に当てはまるもの１～２つに○を付けてください）

①健康　②人間関係　③環境　④言葉　⑤表現

3. 実践者の分析による振り返り（当てはまるものに○を付けてください）

問１．ビデオを見た後、クラスの保育者同士の話し合いを実施しましたか？

①した　②していない

問２．ビデオを見た後、他職員を交えての話し合いを実施しましたか？

①した　②していない

問３．問１、問２で話し合いをした結果どのような効果がありましたか（特に当てはまるもの１～３つに○を付けてください）

①気付かなかった保育実践の良い部分を確認することができた

②次の保育へのヒントを確認することができた

③子どもの発達を冷静にかつ具体的に捉えることができた

④保育士同士の具体的な連携やその方法を確認することができた
⑤環境構成や教材準備の工夫やその方法を確認することができた
⑥子どもとの係わり方の良い部分、不足の部分が具体的に確認できた
⑦自分の保育に自信が持てた
⑧当該クラスだけではなく、他のクラスへの保育のヒントを見ることができた
⑨保育者自身の行動パターンや言葉のかけ方使い方の確認ができた
⑩その他【　　】

問４．問１､問２で話し合いをしなかった理由をお書きください（特に当てはまるもの１つに○を付けてください）

①話し合いの時間を見つけることができなかった
②いつも話し合っているので、わざわざ話し合いの機会を持たなかった
③話し合いの必要性を感じなかった
④その他【　　】

問５．ビデオに撮った保育の自己評価についてお答えください。（一番近いもの１つに○を付けてください）

①保育のねらいは十分に達成された
②保育のねらいはある程度達成された
③保育のねらいは思ったより達成されなかった
④保育のねらいはまったく達成されなかった
⑤当初のねらいとは別の発達が達成された
⑥その他【　　】

問６．問５で保育のねらいが達成されたと感じたのは具体的に子どものどのような行動をみて思いましたか？（特に当てはまるもの１～３つに○を付けてください）

①準備した教材に一定時間集中して関わっていたとき。
②保育士が準備した曲に合わせ身体を動かしていたとき。
③保育士が提供したオモチャ教材に興味をもって関わったとき
④子どもからのフィードバックがあったとき
⑤子どもがねらいに則った遊びを保育者に要求してきたとき
⑥保育者と一緒にした遊びを子どもが自分自身の意思で繰り返していたとき
⑦保育者と一緒にした遊びを子ども同士で繰り返していたとき
⑧保育者の遊びの模倣ではなく経験した遊びから別の遊びを想像し新たな遊びを作り出したとき
⑨保育者と一緒にやった遊びを、こどもから保育者に再度遊びたいと要求してきたとき
⑩その他【　　】

問７．問６で達成されたねらいから見える、子どもの育ちや学びはどのようなものがありましたか？（特に当てはまるもの１～３つに○を付けてください）

①健康な心と体の育ち　②自立心の育ち　③協働性の育ち　④道徳性・規範意識の芽生え　⑤社会生活との関わりの学び　⑥思考力の芽生え　⑦自然との関わり・生命尊重の学び　⑧数量・図形、文字等への関心・感覚の学び　⑨言葉による伝え合いの学び　⑩豊かな感性と表現
⑪その他【　　】

4．今回の保育の中でアタッチメントやスキンシップについてお答えください。

問１．今回の保育の中でアタッチメント（子どもと保育者の愛着関係）を意識しましたか？（当てはまるもの１つに○を付けてください）

①とても意識した
②まあまあ意識した
③特に意識はしていない
④全く意識はしなかった
⑤その他【　　】

問２．今回の保育を振り返り、子どもと保育者の愛着関係が確立していると思いましたか？（当てはまるもの１つに○を付けてください）
①十分に確立していると思った
②ある程度確立していると思った
③確立していないと思った。
④確立のためもう少し努力する必要があると思った
⑤その他【　　】

問３．問２で愛着関係が確立していると思った場面、スキンシップが取れていると思った場面は具体的にどのような場面ですか？
(具体的にお書きください)
【　　】

問４．今回の保育の中で必要なスキンシップが取れたと思いますか？（当てはまるものに○を付けてください）

①十分に取れていると思った
②ある程度取れていると思った
③取れていないと思った。
④取るためもう少し努力する必要があると思った
⑤その他【　　】

問５．アタッチメントやスキンシップを行うことで、子どもにどのような育ちや学びがあったと思いますか？（特に当てはまるものの１～３つに○を付けてください）

①思いやり　②安定した情緒　③自信　④相手の気持ちの受容　⑤好奇心、探究心　⑥表現する喜び　⑦周りの環境への関心　⑧積極性　⑨思考力　⑩観察力　⑪言葉への興味　⑫素直な自己表出　⑬折り合いの付け方の基礎
⑭その他【　　】

6．子どもの興味・関心・探究心等の気持ちを読み取ることについてお答え下さい
問１．今回の保育の中で、子どもの興味・関心・探究心等の気持ちを読み取ることができましたか？（当てはまるものに○を付けてください）

①十分に読み取れた
②ある程度読み取れた
③読み取れなかった
④読み取るためもう少し努力する必要があった
⑤その他【　　】

問２．今回の保育の中で、子どもが遊ぶどのような場面で、子どもの興味・関心・探究心等の気持ちを読み取ることができましたか？（特に当てはまるものに２つに○を付けてください）

①子どもが一人でオモチャ(教材）と関わって遊んでいるとき
②オモチャ(教材）を媒体にして、子ども同士で遊んでいるとき

③オモチャ(教材）を媒体にして、保育者と子どもが１対１で関わっているとき
④オモチャ(教材）を除いた中で、保育者と子どもが１対１で関わっているとき
⑤オモチャ(教材)、子ども同士、保育者の４者が一度に関わり遊んでいるとき
⑥オモチャ(教材）を除いた保育室、又は散歩など自然や地域の環境と関わっているとき
⑦その他【　　】

問３．問２の関わりの後、子どもの育ちや学びに良い影響（変化）がありましたか？（当てはまるもの１つに○を付けてください）
①大いにあった
②ある程度あった
③少しあった
④無かった
⑤かえって子どもの興味関心を損ねた
⑥その他【　　】

7. 非認知能力の育ちについてお聞きします。
問１．今回のビデオで非認知能力が育っていると思われた場面はありましたか？
(どちらか一つに○を付けてください)
①あった　　②なかった

問２．問１で①と答えた方にお聞きします。どのような非認知能力が育ったと思いますか？（特に当てはまるものに１～３つに○を付けてください)

・目標の達成　⇒　①忍耐力　②自己抑制の力　③目標への情熱
・他者との協働　⇒　④社交性　⑤敬意　⑥思いやり
・情動の制御　⇒　⑦自尊心　⑧楽観性　⑨自信

問３．問２についての育ちの具体例を１つお書きください。
［例　ままごと遊びでオモチャの貸し借り　⇒自己抑制の力・社交性　］
具体例【　　】

8. 園と家庭との保育の違いについてお聞きします
問１．園の保育と家庭の保育に違いはあると思いますか？（当てはまるものに１つに○を付けてください）
①大いにある
②ある程度ある
③違いの割合は小さい
④違いはほとんど無い
⑤その他【　　】

問２．問１で①～③に○を付けた方は、園と家庭保育で特に違うと思うもの１～３つに○を付けてください。
①大集団的環境からの学び
②家族以外の多数の大人に関わる中での人間関係の育ち
③同年齢又は異年齢との子ども同士の関わりからの学び
④長期的計画的育ちの援助
⑤個々の発達段階に応じた保育や関わり
⑥豊かな教材や遊具との関わり
⑦子育ての専門的知識を保有し、発達の課題に即した指導
⑧多様な経験（行事等も含む）と総合的な学びの提供
⑨その他【　　】

⑨．保育の計画（指導計画）についてお尋ねします。

問１．保育の計画（指導計画）を作成する際に何を大切に立てていますか？（当てはまるものに１～５つに○を付けてください）

①全体的計画からの流れ
②発達過程
③生活の連続性
④園児の興味関心
⑤養護
⑥教育
⑦個別の関わり
⑧集団の関わり
⑨生活習慣
⑩行事
⑪季節の変化
⑫多様な体験
⑬教材準備
⑭配慮事項
⑮保護者支援
⑯その他【　　】

⑩．今回の保育のビデオ観察について自由に感想をお書きください。（自由記述）

※結果

H29年度保育科学研究アンケート結果

対象施設		①つるた	②飯沼	③境いずみ	3施設	①あおもりよつば	②子供の家	③ひがしどおり	3施設	①中居林	②さざなみ	③るんびにい	3施設
1．対象クラス		0歳児（0歳～1歳児）				1歳児（1歳～2歳児）				2歳児（2歳～3歳児）			
	子どもの数	13	7	6	26	9	15	24	48	12	12	17	41
	職員数（有資格）	5	5	2	12	2	3	4	9	2	2	4	8
	（無資格）							1	1				
	（その他）			1（看護師）	1								
2．ビデオ保育内容	①遊びの内容	①ままごと		②おもちゃ	2	①ままごと	1	②おもちゃ		①ままごと		②おもちゃ	
		③粘土		④お店や		③粘土		④お店や		③粘土	1	④お店や	
		⑤その他	①室内用固定遊具 ②自由遊び、お片付け、おむつ替え、おやつ、朝の歌			⑤その他	①運動遊び ②午前のおやつ ③コーナー遊び			⑤その他	1 ②おやつの時間		
	②ねらいの内容	①指先		②想像力		①指先	1	②想像力		①指先	2	②想像力	1
		③コミュニケ		④言語	1	③コミュニケ	1	④言語		③コミュニケ	1	④言語	1
		⑤子ども同士		⑥身体感覚	1	⑤子ども同士		⑥身体感覚	1	⑤子ども同士	2	⑥身体感覚	
		⑦社会性		⑧五感		⑦社会性		⑧五感		⑦社会性		⑧五感	
		⑨好奇心	2	⑩工夫力		⑨好奇心	1	⑩工夫力		⑨好奇心		⑩工夫力	
		⑪生活習慣	1	⑫情緒	2	⑪生活習慣	1	⑫情緒		⑪生活習慣	1	⑫情緒	
		⑬分類比較		⑭その他		⑬分類比較		⑭その他		⑬分類比較		⑭その他	
				①白いハウス、トンネル、手作り自動車 ②保育教諭の担当内容									
	③環境の工夫	①家具の位置		②おもちゃ	3	①家具の位置	1	②おもちゃ		①家具の位置	1	②おもちゃ	
		③彩光		④換気		③彩光		④換気	1	③彩光		④換気	
		⑤教材	1	⑥テーブル構成		⑤教材	2	⑥テーブル構成		⑤教材	2	⑥テーブル構成	
		⑦コーナー遊び等		⑧色形音等		⑦コーナー遊び等		⑧色形音等		⑦コーナー遊び等	1	⑧色形音等	1
		⑧その他	1			⑧その他				⑧その他			
										②子どもから出た遊びを保育者が共有したことで、他のテーブルにも遊びが展開し、座って待つ時間を楽しく過ごせた。			
	④五領域	①健康	2	②人間関係	3	①健康	2	②人間関係	2	①健康	1	②人間関係	2
		③環境		④言葉		③環境	1	④言葉		③環境		④言葉	1
		⑤表現				⑤表現	1			⑤表現	1		

3．実践者の分析振り返り	①保育者同士	①した	2	②していない	1	①した	1	②していない	2	①した	3	②していない	
	②他職員を交えて	①した	2	②していない	1	①した	1	②していない	2	①した	3	②していない	
	③話合いの効果	①気づき		②ヒント	1	①気づき	1	②ヒント		①気づき	3	②ヒント	
		③子どもの発達	1	④子ども同士		③子どもの発達		④子ども同士		③子どもの発達	1	④子ども同士	1
		⑤準備の工夫		⑥関わり方	2	⑤準備の工夫		⑥関わり方	1	⑤準備の工夫		⑥関わり方	3
		⑦保育に自信		⑧他クラス		⑦保育に自信		⑧他クラス		⑦保育に自信		⑧他クラス	
		⑨行動パターン	2	⑩その他		⑨行動パターン	1	⑩その他		⑨行動パターン		⑩その他	
	④話合いできない理由	①時間がない		②いつも話し合う	1	①時間がない	2	②いつも話し合う		①時間がない		②いつも話し合う	
		③必要性がない		④その他		③必要性がない		④その他		③必要性がない		④その他	
	⑤自己評価	①十分達成		②ある程度	3	①十分達成		②ある程度	3	①十分達成		②ある程度	2
		③思ったより未達成		④まったく未達成		③思ったより未達成		④まったく未達成		③思ったより未達成		④まったく未達成	
		⑤狙いと別の達成				⑤狙いと別の達成				⑤狙いと別の達成	1		
	⑥ねらいの達成感の行動	①一定時間集中		②曲に合わせて身体	1	①一定時間集中	2	②曲に合わせて身体		①一定時間集中	2	②曲に合わせて身体	
		③おもちゃに興味	3	④フィールドバック		③おもちゃに興味	1	④フィールドバック		③おもちゃに興味	2	④フィールドバック	
		⑤遊びを要求		⑥自身の意思で	1	⑤遊びを要求	1	⑥自身の意思で	1	⑤遊びを要求		⑥自身の意思で	1
		⑦子ども同士で		⑧別の遊びの想像		⑦子ども同士で	1	⑧別の遊びの想像		⑦子ども同士で	2	⑧別の遊びの想像	
		⑨再度遊びの要求		⑩その他		⑨再度遊びの要求		⑩その他		⑨再度遊びの要求		⑩その他	
				①子どもが不安になったり欲求を保育者に訴えていた時、受容していた時				②基本的な生活習慣が徐々に身につき、自らが遊んで行うことができてきている。又、情緒も安定している。					
	⑦子どもの育ちや学び	①心と体	2	②自立心		①心と体	2	②自立心	1	①心と体		②自立心	
		③協働性		④道徳性		③協働性	1	④道徳性		③協働性		④道徳性	1
		⑤社会生活		⑥思考力	1	⑤社会生活		⑥思考力		⑤社会生活	1	⑥思考力	1
		⑦自然・生命		⑧数・文字		⑦自然・生命		⑧数・文字		⑦自然・生命		⑧数・文字	
		⑨言葉		⑩感性・表現	2	⑨言葉	2	⑩感性・表現	1	⑨言葉	1	⑩感性・表現	2
		⑪その他				⑪その他				⑪その他			
4．保育のアタッチメント・スキンシップ	①アタッチメントの意識	①意識した	1	②まあまあ意識	2	①意識した		②まあまあ意識	1	①意識した	2	②まあまあ意識	1
		③特に意識なし		④全く意識なし		③特に意識なし	2	④全く意識なし		③特に意識なし		④全く意識なし	
		⑤その他				⑤その他				⑤その他			
	②愛着関係の確立	①十分に確立	1	②ある程度確立	2	①十分に確立	1	②ある程度確立	2	①十分に確立		②ある程度確立	2
		③確立しない		④確立には努力		③確立しない		④確立には努力		③確立しない		④確立には努力	1
		⑤その他				⑤その他				⑤その他			
	③スキンシップの具体例	①不安が強く泣いていた子が特定の保育者の抱っこや声掛けで泣き止み安心して一人遊びする場面　・特定の保育者に自分の欲求を声掛けや身振りで知らせ、抱っこしてもらい満足して遊びだす場面 ②おやつ時、椅子に座りたくなかったH君もそばについたことで安心して座れた。おむつ替えのとき、一人一人への言葉がけやかかわり方。　③特定の保育者に自分の欲求を声掛けや身振りで知らせ、抱っこしてもらい満足して遊びだす場面				①遊びの途中に「先生」と言いながら何度も背中にくっついてくる。・足がもつれて指を痛めたとき、保育者に「大丈夫?」と声をかけられると、えっと笑顔を見せ、遊びに戻ったり楽しんでいる。 おでこをぶつけたとき、「道体のとんでいけ」と何度か声掛けをかけると、安心した表情を見せ、遊びに戻る。 ②「スキンシップ」という項目でしたが、時間帯的に午前のおやつから排泄であり、スキンシップが比較的に少ないときであった。しかし、その中でも子どもが落ち着いて、自主的に食事が行うことができ、できない部分先生にお願いするなど、しっかりと信頼関係が構築されていた。 ③保育者の側に来て話しかけたり、ひざに座ってして遊んでいる時				①各コーナーで達成した喜びを保育教諭とハイタッチする場面 ②手遊びの場面⇒保育者とのやり取り　・保護者がその場を離れた場合でも座って待てていた⇒信頼　③園児の言葉に対し応答している。・粉が園児の顔に係ったときの対応　・読み聞かせ途中でぐずる園児への対応　・保育士の声掛けを聞こうとする態度と聞いた後の遊びへの取り組む姿勢			

	④スキンシップの有無	①十分取れた	1	②ある程度	2	①十分取れた		②ある程度	3	①十分取れた	1	②ある程度	1
		③取れない		④取るために努力		③取れない		④取るために努力		③取れない		④取るために努力	1
		⑤その他				⑤その他				⑤その他			
	⑤アタッチメント、スキンシップでの育ち	①思いやり		②安定した情緒	3	①思いやり	1	②安定した情緒	2	①思いやり		②安定した情緒	3
		③自信		④相手の気持ち		③自信	1	④相手の気持ち	1	③自信		④相手の気持ち	
		⑤好奇心	1	⑥表現喜び	1	⑤好奇心		⑥表現喜び	1	⑤好奇心		⑥表現喜び	1
		⑦環境への関心		⑧積極性		⑦環境への関心		⑧積極性		⑦環境への関心	1	⑧積極性	
		⑨思考力		⑩観察力		⑨思考力		⑩観察力		⑨思考力		⑩観察力	
		⑪言葉への興味		⑫自己表出	2	⑪言葉への興味	1	⑫自己表出	1	⑪言葉への興味		⑫自己表出	3
		⑬祈り合い		⑭その他		⑬祈り合い		⑭その他		⑬祈り合い		⑭その他	
5．興味・関心・探求心	①興味、関心、探求心	①十分読取れた		②る程度	3	①十分読取れた		②る程度	3	①十分読取れた		②ある程度	3
		③読み取れない		④読取るには努力		③読み取れない		④読取るには努力		③読み取れない		④読取るには努力	
		⑤その他				⑤その他				⑤その他			
	②どのような場面で	①おもちゃで遊ぶ	2	②子ども同士		①おもちゃで遊ぶ	1	②子ども同士		①おもちゃで遊ぶ	1	②子ども同士	1
		③保育者と子ども	3	④おもちゃを除いて		③保育者と子ども	1	④おもちゃを除いて		③保育者と子ども		④おもちゃを除いて	
		⑤おもちゃと4者		⑥おもちゃを除く		⑤おもちゃと4者	1	⑥おもちゃを除く		⑤おもちゃと4者	2	⑥おもちゃを除く	
		⑦その他				⑦その他				⑦その他			
										②おもちゃ（教材）を除いた中で子ども同士が関わり遊んでいた時			
	③育ちや学びへの環境	①大いにある		②ある程度	1	①大いにある		②ある程度	2	①大いにある	1	②ある程度	2
		③少しある	2	④ない		③少しある		④ない		③少しある		④ない	
		⑤興味関心を損ねる		⑥その他		⑤興味関心を損ねる		⑥その他		⑤興味関心を損ねる		⑥その他	
6．非認知能力の育ち	①非認知育ち	①ある	3	②ない		①ある	1	②ない	1	①ある	3	②ない	
	②育ちの場面	①忍耐力		②自己抑制	2	①忍耐力		②自己抑制	1	①忍耐力		②自己抑制	3
		③目標への情熱		④社交性	2	③目標への情熱		④社交性		③目標への情熱		④社交性	2
		⑤敬意		⑥思いやり		⑤敬意		⑥思いやり	1	⑤敬意		⑥思いやり	2
		⑦自尊心	2	⑧楽観性		⑦自尊心		⑧楽観性	1	⑦自尊心		⑧楽観性	
		⑨自信				⑨自信				⑨自信	1		
	③育ちの具体例	①保育者が他児を抱いている時、抱っこしてほしい思いを泣かずに訴えた⇒自己抑制・自尊心　保護者との触れ合い、他児の側で同じおもちゃに興味を示して遊ぶ⇒社交性） ②遊びの途中だったが、お片付けの合図で辞めて片付けることができた。 ③遊びの途中だが、お片付けの合図で片づけることができた				①運動遊びで順番を守ったり、前に入れてあげようとする⇒自己抑制・おもり槍				①コーナー遊びで友達が倒した箸立てを直してあげた⇒思いやり ②おやつの時間は座って待つという基本的なルールを守り、遊びを見出し座って楽しみながら待っていた。 ③園児四人と保育者と一緒に粘土をこねる⇒自己抑制　年度をお友達に分ける⇒思いやり			

7. 園と家庭の保育の違い	①園と家庭の違い	①大いにある	2	②ある程度	1	①大いにある	1	②ある程度	2	①大いにある	3	②ある程度	
		③違いは小さい		④ほとんどない		③違いは小さい		④ほとんどない		③違いは小さい		④ほとんどない	
		⑤その他				⑤その他				⑤その他			
	②園と家庭と特に違う	①大集団の学び		②人間関係の育ち	2	①大集団の学び	1	②人間関係の育ち	1	①大集団の学び	2	②人間関係の育ち	
		③子ども同士の学び	2	④計画的育ち援助		③子ども同士の学び	3	④計画的育ち援助		③子ども同士の学び	3	④計画的育ち援助	
		⑤個々の発達の保育	3	⑥教材・遊具		⑤個々の発達の保育	2	⑥教材・遊具		⑤個々の発達の保育		⑥教材・遊具	1
		⑦課題に即した指導	2	⑧行事等学び		⑦課題に即した指導		⑧行事等学び	2	⑦課題に即した指導	1	⑧行事等学び	2
8. 保育の計画	①保育の計画で大切にしているもの	①全体計画からの流れ		②発達過程	3	①全体計画からの流れ	2	②発達過程	3	①全体計画からの流れ	3	②発達過程	3
		③生活の連続性	2	④興味関心	1	③生活の連続性	2	④興味関心	2	③生活の連続性		④興味関心	2
		⑤養護	2	⑥教育	1	⑤養護		⑥教育		⑤養護	1	⑥教育	
		⑦個別の関わり	1	⑧集団の関わり		⑦個別の関わり	2	⑧集団の関わり	1	⑦個別の関わり		⑧集団の関わり	1
		⑨生活習慣	2	⑩行事		⑨生活習慣		⑩行事	1	⑨生活習慣	1	⑩行事	
		⑪季節の変化		⑫多様な経験		⑪季節の変化		⑫多様な経験	1	⑪季節の変化		⑫多様な経験	2
		⑬教材準備		⑭配慮事項	2	⑬教材準備		⑭配慮事項	1	⑬教材準備		⑭配慮事項	2
		⑮保護者支援	1	⑯その他		⑮保護者支援		⑯その他		⑮保護者支援		⑯その他	
9. その他	①自由記述	①普段子ども一人一人が安心して生活できるよう、環境を整えていたものの、保育者間の声掛けの不足や慈乳の際の関わり方、又、すべての子どもの欲求に応えられない場面もあり課題が明確になった。今後さらに園内研修の中で話し合い改善し、保育に生かしていけるようにする。 ②今回のビデオ観察により保育を振り返る良い機会になった。0歳児は特に成長発達の著しい時期で、個々の発達を把握しているつもりでしたが、撮影中、ある子が1つの活動が終わると次の活動が分かり移動している様子を見て生活の流れの覚え行動できるようになったことに気づきました。毎日の生活習慣やスキンシップでの安心感の大切さを感じました。　③今回のビデオ撮影により保育を振り返ることができ良い機会となりました。個々の発達を把握しているつもりでしたが、保育者の声掛けに対してきちんと聞き活動ができていた里、逆にできていると思っていたことができていないことに気づくことができました。					①保育をビデオで撮るということは初めてで、多少ビデオを意識した部分はあった。子どもたちへのかかわりや配慮は普段通りだったと思いますが、今回は保育教諭と意見を交わすということはありませんでしたが、お互いの保育を見合わせることは、自分の気づかない良い部分だったり、注意が必要な部分を知ることになります。子どもたちにとってより良い保育を行うためには、ビデオ観察は良いことではないかと思います。 ③保育者がずっと座っているので子どもが死角になっても気が付いてない状況があった。子どもが飽きてしまっていることに気づかずずっと遊びを続けているので遊びを臨機応変に変えることも必要だと思う。又、遊びに入る前に使い方や名称等を知らせるとよいと思う。保育者も声掛けをしながら一緒に遊ぶことにより言葉も増えていくと思う。大勢で同じ遊びをするよりコーナーで遊んだりする等の工夫が必要だと思う。					①自分の保育を客観的に振り返ることができ、次の保育に生かすことができた。 ②ビデオを観て自分の動きを客観的にみることができた。・子どもの動きを改めてみると、見えていない部分に気づくことができた。・保育をしているところを観れるという点で、ビデオ撮影は自分の保育を振り返ることができると思った。 ③自分たちの保育をビデオに撮って振り返ることは、保育を見直すきっかけとなりました。何気なくしていることに意味があったり、不必要な言動をしていたり、よいことも今後の課題も見えてきたので、保育の自己評価をするものとしてよかった。				

次の写真は、今回の研究に関する保育者へのアンケート内容の一部を現場の画像として捉えたもので、保育者と３歳未満児の愛着関係や年齢による興味関心への発達援助を捉えたものです

・保育者の関わりや暖かいまなざしに支えられている

０歳児

・一人ひとりの子どもの心に寄り添いながら受け入れ、受け止め、受け流し一瞬一瞬を共に生きている